

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2025年6月30日(月)～7月6日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、主をみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。『みことばの光』は一冊(一ヶ月)430円(注文は栗原弥希姉まで)。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

今週も旧約聖書「列王記第一」を読みます。分裂したイスラエル王国。ダビデの子孫が治める南ユダ王国そして、北イスラエル王国。それぞれの王の歩みを見ていきます。

6月30日(月)

今日の聖書日課：I 列王記 15:23～34

彼は主の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩み、ヤロブアムがイスラエルに犯させた罪の道に歩んだ。

I 列王記 15:34

今日の聖書日課には北イスラエル王国の二人の王について記されています。一人はヤロブアムの次に王となったナダブ。彼はヤロブアムの息子でした(25)。彼は「彼の父(ヤロブアム)の道に歩み」ました。(26)。その次に王となったのはバアシャ。彼はヤロブアムの息子ではなくナダブに謀反を企てて王となりました。バアシャはナダブの姿から主の道に歩んだか、と思いきや冒頭の聖句。「ヤロブアムの道に歩」んだのです。罪の道を歩むのはいかにたやすいことであるか、主の道を歩むのは主のあわれみによるということがわかります。

7月1日(火)

今日の聖書日課：I 列王記 16:1～20

これは、彼が罪を犯して主の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩んだその罪のゆえであり、イスラエルに罪を犯させた彼の罪のゆえであった。

I 列王記 16:19

北王国の王についての記述が続きます。バアシャの子エラが王位を引き継ぎますが、エラは家来のジムリがエラに対し謀反を企てます。ジムリは王となりますが、その王位はわずか七日間(15)。最終的にはエラ王に対する謀反のゆえに退けられます。そしてたった七日間の治世においても、冒頭の聖句。エラはバアシャに謀反を企てても「ヤロブアムの道」は同じ。金の子牛を拝むこと、いや主を信じない、自分に頼る罪はどこからでも湧き上がるのです。

7月2日（水） 今日には祈禱会が行われます。

今日の聖書日課：Ⅰ列王記 16：21～34

彼の時代に、ベテル人ヒエルがエリコを再建した。彼は、その礎を据えたとき長子アビラムを失い、門を建てたとき末の子セクブを失った。ヌンの子ヨシュアを通して語られた主のことばのとおりであった。

Ⅰ列王記 16：34

エラに謀反を企てたジムリを退けたのは軍の長オムリ（16）。このオムリが北イスラエルの王となりました。オムリ、そしてその息子アハブ。この親子はそれまでの北王国の王たちにもましてますます主の怒りを引き起こしました。冒頭の聖句は、大昔、ヨシュアの時代に主が語られた預言の成就。主に従わないならこうなるというアハブへの警告でした。しかしアハブは意に介さずますます主に背いていきました。しかし覚えておきましょう。主のことばは語られていたことを。

7月3日（木） 本日、和歌山では「午後の集い」、岸和田では英会話クラスが行われます。

今日の聖書日課：Ⅰ列王記 17：1～24

その女はエリヤに言った。「今、あなたが神の人であり、あなたの口にある主のことばが真実であることを知りました。」

Ⅰ列王記 17：24

主のことばはアハブの治世においても語られました。特に預言者によって。預言者エリヤが登場します。エリヤはアハブに飢饉を予告した後、主の命によってアハブから身を隠します。シドンのツアレファテで一人のやもめとその息子に出会いますが、この親子はエリヤが語る主のみことばを信じて飢え死にすることがなく生かされ、さらに息子が死の病に陥りますが、エリヤの祈りによって救われました。冒頭の聖句はそのときの母親のことば。どんなに時代が暗くても神の人がいること、主のことばが真実であること、それがイスラエルの希望でした。

7月4日（金）

今日の聖書日課：Ⅰ列王記 18：1～24

エリヤは皆の前に進み出て言った。「おまえたちは、いつまで、どっちつかずによろめいているのか。もし主が神であれば、主に従い、もしバアルが神であれば、バアルに従え。」しかし、民は一言も答えなかった。

Ⅰ列王記 18：21

北イスラエル王国に蔓延していた異教の神バアルへの礼拝。エリヤはイスラエルの民に向かって大胆にもこのように語りかけました。主こそがただひとりのまことの神である、という信仰のゆえに彼は民に訴えました。しかし、民は一言も答えない。まさに「どっちつかずによろめいて」いました。これを見てエリヤはバアルの預言者 450 人との「対決」を決意したのです。

あなたはどうですか？エリヤのことばに答えることができますか？

7月5日（土）

今日の聖書日課：Ⅰ列王記 18：25～46

私に答えてください。主よ、私に答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻してくださったことを知るでしょう。」

Ⅰ列王記 18：37

そして主がエリヤに答えてくださいました。祈りに答えてくださるお方に、叫びましょう。

7月6日（日）

礼拝説教箇所：Ⅰ列王記 19：1～14 「ひとりじゃないよ」 神さまと仲間がいます。